

◆ “ふるさとちば”のための政策推進を◆



かず お いとう和男県議会リポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

健康に暮らせるふるさとづくりに力を注いでいる伊藤和男県議（香取市選出、8期）は12月県議会で一般質問を行い、千葉県の医師不足問題、健康の維持・増進に役立つ農作物新品种の開発などについて県への修学資金貸付実績が327人に達し、また、県内で初期臨床研修を行う予定者が過去最高になったことを明らかにしました。伊藤県議の質疑と県当局の答弁を紹介します。

医師確保へ修学資金 327人に貸し付け

県内の研修医過去最高へ

12月定例県議会一般質問



12月定例県議会で一般質問を行う伊藤和男県議

県立病院のあり方を検討

医療提供体制の見直し議論で

県立病院の経営状況は、平成26年度以降経常赤字となるなど、厳しい状況が続いている。しかし、県立病院新改革プランに基づき、県民に安心してより良い医療を継続して提供できることとしています。

県立病院の経営安定のため高度医療だけではなく総合病院化することも、高齢化の時代では必要と思うかどうか。

保健医療担当部長

伊藤議員 県立病院について、経営安定のため高度医療だけではなく総合病院化することも、高齢化の時代では必要と思うかどうか。

これからの県立病院の方については、他の医療機関との役割分担と連携のもと、経営健全化や医療機能の見直しを図りつつ、県全体の医療提供体制の見直し等の議論の中で、検討していく

伊藤議員 日本国内の医師免許を取得した人の数は約30万4000人で、このうち千葉県の医師数は1万8000人、開業医は3050人となっている。人口10万人当たりの全国平均医師数は260人だが、千葉県は189人で、全国ワースト3になっている。

そこでどうかがうが、県は医師不足の現状をどう認識しているのか。今後、貸し付けを受けた医師が医師不足地域の病院に順次就業していくよう、地域医療について意識向上を図る大学別セミナーの開催を進めています。

保健医療担当部長 高齢者急増が見込まれる本県において、医師確保が喫緊の課題であることから、将来省内で働く意思を持つ医学生に対して修学資金の貸し付けを行っており、貸付者数は327名、このうち68名がすでに県内の医療機関で勤務しています。

保健医療担当部長 高齢者急増が見込まれる本県において、医師確保が喫緊の課題であることから、将来省内で働く意思を持つ医学生に対して修学資金の貸し付けを行っており、貸付者数は327名、このうち68名がすでに県内の医療機関で勤務しています。

保健医療担当部長 研修医の確保に向けたピアーチルを実施し、来年度、県内の医療機関で初期臨床研修を行う者が425名の予定となり、前年度と比較して36名の増加となったところです。県としては、大学や中核病院等の関係機関と連携を図りながら、誰もが安心して良質な医療を受けることができるよう、より一層、医師確保対策に取り組んでまいります。

再質問

伊藤議員 来年度から若い研修医、前期研修医が千葉県では増えているという良いニュースを漏れ聞いてるので、どうなっているのか内容をお示していただきたい。

市 民 の 声 を 県 政

●県政や香取市のご相談はお気軽にどうぞ

〒260-0855
千葉市中央区市場町9-1-101
TEL・FAX 043-202-2301
E-mail 12jimn221201@gmail.com

いとう和男 県議会事務所

平成31年2月12日(火曜日)

知事 近年、消費者の健康志向の高まりを受け、民間では、血圧を下げる効果があるGABAを多く含んだトマトや、抗酸化作用を高める効果があると言われるβカロテンを多く含んだニンジンなど、機能性成分に着目した新品種の研究開発を行うべきと思うがどうか。

伊藤議員 農産物の販売促進において、野菜の栄養面などに着目したPRを行なうべきと思うがどうか。

千葉県産の主要な農産物を見ても、トマトやニンジンなどのほか、例えは、サヤインゲンにはビタミンKが、ナバナにはβカロテンが豊富に含まれるなど、健康に良いと言われる成分を含む農産物が数多くあります。また、地域や学校で行われる食育

セールスポイントは「健康」



伊藤議員

農作物も栄養素をアピールする時代に来て

いるのではないか。新たな新品種の研究開発を行うべきだ。そこでうかがうが農産物の健

農産物販売にも 栄養のPR必要

いました。

また、機能性成分であるオレイン酸が一般の品種よりも多く含まれる落花生を育成し、現在、血液中のコレステロールを下げる効果について、評価試験を行なっているところです。

でまいります。

要望 伊藤議員 農業産出額第一位奪還のた

め、頑張つてもらいたい。

議場の自席で再質問をする伊藤県議

全教員への指導力強化

でまいります。

ささらに、土壤に含まれる養分などの現状や、野菜と人に

です。

このため県では、土壤診

断に基づいた施肥設計を行

い必要な肥料や堆肥の投

入など、適正施肥の取り組

みを働きかけているところ

です。

このことによる再入札が、

事業進捗に影響を及ぼして

いる現状を踏まえ、県として

入札制度の改善に向けた検

討を進めてまいります。

農産物新品种開発を

良質な野菜生産へ 土壌の改良を指導

の中でも、農産物が持つ栄養について取り上げられています。

今後は、消費者の関心の高まりなどを踏まえ、農産物が持つ優れた栄

養について、農産物の販売促進に生かせるよう取り組んでまいります。

伊藤議員 健康増進につながる良質な野菜生産における土壌改良について、どのように指導しているのか。

農林水産部長 健康増進においても、健康の維持・増進に役立つ品種の開発に取り組み、これまでタンパク質を制限する方の食事に適した低グルテリン米「ゆめかんなえ」を育成しました。

伊藤議員 健康増進については、地域が抱える実情や課題は様々であることが、学校の設置者である市町村が主体となって、保護者や地域住民と十分な対話をを行い、合意形成を図ることが重要と認識しております。

教育長 小学校の統合については、地域が抱える実情や課題は様々であることが、学校の設置者である市町村が主体となって、保護者や地域住民と十分な対話をを行い、合意形成を図ることが重要と認識しております。

伊藤議員 公立小学校の統合について、県教育委員会としてどのように考えているのか。

伊藤議員 公立小学校の統合について、県教育委員会としてどのように考えているのか。